

編集発行責任者 飯田 誠

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

INDEX

01. 葛飾区医療救護訓練

02. 葛飾区医療救護訓練、中央検査部 診療部長就任のご挨拶

03. 中央検査部 診療部長就任のご挨拶、感染制御部 診療部長就任のご挨拶

04. 感染制御部 診療部長就任のご挨拶、放射線部 診療部長就任のご挨拶

葛飾区医療救護訓練



2

025年3月9日(日)、当院は葛飾区が主催する「葛飾区医療救護訓練」に参加いたしました。この訓練は、夜間に都心南部を震源とするマグニチュード7.3、震度6強の大規模地震が発生し、青戸、高砂、金町地域に多数の負傷者が生じるという想定で実施されました。

今回の訓練には、当院の教職員をはじめ、地域住民、近隣医療機関、医療関係者、自衛隊、東京消防庁、行政機関など、幅広い関係者が参加し、地域全体で災害対応能力を向上させるための重要な取り組みとなりました。

災害拠点病院である当院は、災害時における迅速な対応と地域の医療機関や行政機関との密接な連携が求められます。特に無線を使用した訓練では、災害状況や患者情報を正確に聞き取り迅速に伝達する技術が求められ、情報整理の重要性を改めて確認することが出来ました。膨大な情報が交錯する現場では、冷静かつ正確な対応が鍵となりますが、この訓練では対応スキルを磨く場となりました。

病院の正面玄関前に設置されたトリアージエリアでは、多数の傷病者が発生した状況を想定した訓練が行われました。トリアージエリアでは、模擬患者の緊急度や重症度を素早く判断し、適切な治療順序を決定するプロセスを実践しました。医師と看護師がチームを組み、止血や応急処置、骨折対応など、実際の災害時に必要となるスキルを駆使して対応にあたりました。この訓練を通じて、限られた医療資源と人員を最大限に活用し、可能な限り多くの命を救うためのトリアージの重要性を参加者全員で再確認しました。



また、自衛隊および東京消防庁との連携訓練では、外部から搬送される患者の受け入れフローや搬送経路を確認しました。これにより、患者受け入れ時の課題が明確になるとともに、より効率的で安全な搬送プロセスを確立するための貴重な知見が得られました。特に、自衛隊が提供する迅速な搬送支援は、災害時における医療機関の負担を軽減するうえで重要な要素であることを実感しました。

今回の訓練を通じて、当院が災害時に担う役割の重要性を改めて認識するとともに、現場で直面する可能性のある多くの課題が明らかになりました。これらの課題を分析し、現行の災害対応マニュアルをより実践的かつ効果的なものに改善していくことが今後の課題です。また、訓練で得られた知見や経験を教職員全体で共有し、病院全体で災害対応能力を向上させるための具体的な計画を策定していく予定です。

最後に、本訓練の開催に尽力いただいた葛飾区保健所ならびに葛飾区医師会をはじめ、すべての関係機関の皆さまに深く感謝申し上げます。また、訓練にご協力いただいた地域住民の皆さまにも心よりお礼申し上げます。当院は今後も、地域の皆さまの健康と安全を守る災害拠点病院として、その使命を果たし続けるべく努力してまいります。

—— 中央検査部 診療部長就任のご挨拶 ——

2

025年4月より葛飾医療センター中央検査部診療部長に就任しました海渡信義（かいとのぶよし）と申します。私は慈恵医大卒業後に同大の脳神経外科学教室に入局し、脳外科専門医取得以降は約25年主に難治性てんかんに対する診療を行ってまいりました。てんかん専門外来を通し、脳波を含めた生理学的検査に深くかかわることになりましたが、その経緯から前任の臨床検査医学講座教授の松浦先生にお声をかけていただき、2年前に臨床検査医学講座に異動となりました。そこで新たに教授に就任された越智教授にご指導いただき、このたび葛飾医療センターの中央検査部部長を拝命いたしました。

脳外科勤務の間は、むしろ検査をオーダーする立場として、検査技師の方に“なぜ今検査ができないのか”など無理難題を申し上げてきましたが、今はその無理難題を聞く側になっております。ただ、臨床医の待ったなしの状況も理解できる立場でもあり、可及的速やかに検査依頼をお受けし、かつ質の高い検査を行うこと、さらに異常値や問題となる結果を即座にフィードバックする事の重要性を痛感する日々です。

当院はこれまでも地域の先生方からのご依頼を受け諸検査を行ってまいりましたが、この度東京都より3月31日付で「地域医療支援病院」の承認を得ることになりました。これを機に、さらに先生方からのご依頼に迅速に対応できるよう努めてまいります。また、ご信頼いただけるデーターをお伝えするために、各種検査機器の精度管理を行い、慈恵医大の附属病院（本院）に所属するすべての検査技師の技術の向上のための教育を継続してまいります。

葛飾医療センター中央検査部はこれからも「迅速に・正確に検査結果をお伝えする」ことをモットーに地域医療に貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



中央検査部 診療部長
海渡 信義

—— 感染制御部 診療部長就任のご挨拶 ——

2 025年4月1日付けで感染制御部の診療部長に就任いたしました山口敏行と申します。3月までは本院の感染制御科に、その前は柏病院の感染制御部に在籍しておりました。この場をお借りしてご挨拶を申し上げます。

私は長崎市の生まれで、実家から5kmほどにある長崎大学で学びました。同第二内科に入局し、呼吸器・消化器・循環器・腎臓を中心とした初期研修を行い、修了後は同臨床検査医学講座の大学院生として緑膿菌をはじめとした細菌感染症の研究を行いました。学位取得後は医局の先輩とともに、埼玉医科大学の新しい診療科「感染症科・感染制御科」を立ち上げる仕事に打ち込み、薬剤耐性緑膿菌（MDRP）感染症やHIV感染症の治療と研究、およびMDRPやバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）のアウトブレイクを通じた環境整備の実践と研究を行いました。柏病院ではコロナ禍の対応も行ってきました。

感染制御部は中央診療部門として設立されており、感染制御部が主科での入院診療は行っておりませんが、HIV感染症を中心とした外来診療（毎週月曜日午前のみ）と、各診療科



感染制御部 診療部長
山口 敏行



から紹介された患者さんの感染症の治療や感染対策に関する相談を受け対応しています。そのために、私を含む感染対策室を中心として次の2つのチームを組織し、より効率的な対応ができるよう、積極的な行動を心がけています。

- AST (Antimicrobial Stewardship Team : 抗菌薬適正使用支援チーム)
感染症を発症した患者が適切な抗菌薬治療を受けられるように主治医を支援するチーム
- ICT (Infection Control Team : 感染制御チーム)
耐性菌やウイルスなどによる院内感染を拡げない対策を実践するチーム

患者さんと直接お会いする機会は少ないかもしれませんが、葛飾医療センターにおける感染症診療が少しでも質の高いものになるように、入院される患者さんが少しでも清潔な環境で治療を受けることができるように、日々努力してまいります。

—— 放射線部 診療部長就任のご挨拶 ——

2 025年4月1日より、辰野聡診療部長の後任として当葛飾医療センター放射線部の診療部長を拝命いたしました。東京慈恵会医科大学を平成7年に卒業後、大学附属病院および東京労災病院勤務の後、東京慈恵会医科大学附属病院（本院）画像診断部で約15年間勤務し、主に腹部領域の画像診断に携わってまいりました。

葛飾医療センター放射線部には現在4名の画像診断専門医が常勤しており、専攻医とともに日常診療にあたっております。CT、MRIにつきましては、可能な限り当日中の報告書作成を行っております。各診療科からの依頼があれば、血管内治療にも対応しております。また、非常勤医1名による放射線治療も行っております。

さらに当院では、近隣の施設様からの画像検査もお受けしております。撮像後すみやかに読影を行い、報告書を返送させていただきます。安全に、かつ的確な検査を行うために、検査前に患者様情報の確認が必要となる場合があります。また緊急性の高い所見があった場合には、直接連絡をさせていただく場合もあります。予約を入れる際には、なるべく貴院休診日を避けていただきますよう、お願いいたします。

円滑な診療の手助けとなるよう尽力する所存ですので、よろしくお願いいたします。



放射線部 診療部長
川上 剛